

第 17 回 議会改革推進特別委員会記録

令和 5 年 1 月 23 日 (月)

10 時 00 分 ~12 時 5 分

全 員 協 議 会 室

【委 員】 牛尾委員長、西田副委員長
足立委員、村武委員、小川委員、佐々木委員、田畑委員

【委員外】

【議長団】 笹田議長

【事務局】 下間書記

議 題

- 1 行政視察を終えて
 - (1) 委員派遣報告書の作成について
 - (2) 行政視察レポートの作成について

- 2 その他

○次回開催 2 月 16 日 (木) 午前 10 時 00 分 全員協議会室

【議事の経過】

(開議 10 時 00 分)

牛尾委員長 第 17 回議会改革推進特別委員会を開会する。今日は、行政視察を終えての委員派遣報告書の作成について、委員会の考察を協議でまとめるということで開催する。

議題 1 行政視察の実施について

(1) 委員派遣報告書の作成について

牛尾委員長 皆から既に出してもらっているのので、それをさらっていく。

西田副委員長 行き先ごとに 1 人ずつ所感を言ってもらおうか。

牛尾委員長 そうしよう。最初の 1 ページについてのチェックは不要でよいか。議員の所感はそれぞれで上げてもらったのだから、それを直すということもないように思うが、どうか。

西田副委員長 各委員が所感を書いておられるので、簡単にそれを述べていただき、その中で浜田市にとって今後検討が必要な項目がもしあれば、そこだけピックアップしてまとめていく方法でよいのでは。

牛尾委員長 皆もそれでよいか。

(「異議なし」という声あり)

では順番にお願いします。まず自分から言うが、松江市議会ときちんと絡めなかった気がするのので、少し空回りを感じた。ほかに書くことがないので、この時期の受入れに感謝すると書いた。

西田副委員長 私も松江市議会については特にはないが、広域合併した中で議員それぞれの本気度を、条例提案を作成する過程ですごく感じた。ただ浜田市議会にとって何か参考になるかという点、検証シートによって評価する方法は浜田でも取り入れてもよいかなと思うくらいである。

足立委員 検証シートについては浜田市議会においても容認する価値はあろうかと思うが、それに要する時間をどれだけかけるのかは、この検証シートを拝見する限り結構な内容があるため、相当な時間を取られるのではないかと心配がある。

別角度ではあるが、政務活動費について今回行った先全て確認させていただいたが、松江市議会は政務活動費が結構な額だった。それを考えると、浜田市議会の政務活動費がこのままでよいのかどうかは、今後の課題の一つになろうかと思うし、他市の状況をこうして把握できたことは大きな勉強になった。

議員報酬のこともいろいろあろうかと思うが、議員報酬と政務活動費は全然別物なので、浜田市議会の政務活動費は厳しい状況だと委員長も言われているので、今後の課題かと思う。

村武委員 基本条例の検証シートはよいと思った。こちらは浜田市議会でもできるかどうか検討していてもよい。

小川委員

政務活動費は金額が多くて本当にうらやましい。浜田市議会においても政務活動費について検討していただきたい。

条例を1本仕上げたとの報告があったが、それ以降はなかなか議会として研究会を立ち上げて継続していこうという雰囲気ではなかったように思う。今後提言や条例をつくる場合は会派でまとめていくという方向になっているとのことだった。1本つくってそれ以上が無理となった原因や背景があると思う。議員の負担感や事務局との連携、チーム議会という体制の中で議会の政策提言能力を高めるための方策を、一つの経験から導き出して、どのように体制強化するかまで考察されたりすればすごく参考になったと思う。ただ、1回つくる中で研究会を立ち上げた仕組みやフロー図など、今後の浜田市議会にも役に立つポイントがあったと思う。

佐々木委員

政策条例のところが一番印象に残っている。会派から選出された研究会で積み上げてできたものということで、非常に意義がある取組だったと思う。残念ながらその後がないのが少し気になったが。会派から出て何かを達成するというのは非常に参考になった。

田畑委員

理念条例ではなく政策条例を作成されたとのこと、すばらしいことだと思った。議員が政策条例策定に向けて皆が一生懸命取り組んだ結果の条例だろうと感じる。また、政策条例なので我々浜田市議会も現状把握しながら取り組んでいきたい。予算審議については我々とは手法が違ふと感じた。

牛尾委員長

次に津山市議会については、職員の話が参考になった。政務活動費に絡め議場の整備をしたり、そういう考え方があるのかなと思った。視察旅費を政務活動費に回す考え方をしてもよいかと。報酬審議会の中でいろいろな制約を課せられているので、議会全体に係る議会費をこれ以上増やすべきではないとの注文がついているので、その辺も絡めて今後の政務活動費について検討する必要がある。

西田副委員長

LINE WORKSは非常に面白いと感じた。

採決システムを議場で体験したときの話にもあったが、議長が長い議案を2回、3回続けて読むようなときには、やり方次第で時間短縮にもつながるように思う。非常に参考になった。

LINE WORKSについても、浜田市でも取り組めそうである。事務局も来年に機器更新するので、LINE WORKSの導入もできなくはないと聞いた。今後できるかと思った。

足立委員

LINE WORKSは現状のLINEよりも非常に使い勝手がよいと思う。現在うちの端末がWi-Fi方式なので、これをセルラー方式にしてどこでも通信できる方向性に持っていくことで、今後、災害が起きても各議員が瞬時に情報等のやりとりができるのでは。現在の視察旅費13万円の3万円を例えば削って、端末をセルラー方式にやりかえるのも一案と感じたし、LINE WORKSを活用することで、正副議

村武委員

長の日程が把握できるので、よい取組だと感じた。

選挙投票率があまり高くなかった点について伺ったが、そのあたりは市民に対する議会認知度は、うちの市議会同様に大変苦慮されている大きな課題なのではと受けとめた。

LINE WORKSは非常によいと感じた。現在浜田市はセルラー方式でないのでその課題がクリアされたら、ぜひ取り組んでいただきたい。また、事務局の負担も考える必要がある。

議会スタジオについては、議員が汗をかいておられると感じた。視覚障がい者向けの声の広報というのはすばらしいが、そこで予算をあまりかけず津山市バージョンを考えて、自分たちで取り組んでいるのは本当にすばらしい。浜田市議会においても検討してもよい。

電子採決も、議員の責任感も向上すると思うし、何より市民に向けてもわかりやすいので、こちらもぜひ検討していけたらと感じた。

小川委員

商業施設などでの議会報告会や出前講座などをされている。市民と議会の距離が近い印象を受けた。市民の声に応える広報もされているし、議員の一生懸命さが伝わる。

セルラー方式やLINE WORKSについては皆が言われたとおりである。電子採決システムについては、傍聴者やケーブルテレビを見ている方にわかりやすいということで効果はあると思うが、かなり経費がかかるので、ほかのことと併せてそれも導入するならよいが、単独では経費的に難しいだろう。

佐々木委員

議会スタジオの件はアンケートを取られて、なかなか関心を持ってもらえないということが書いてあった。議会を見たこともないのに否定する意見というのはどこでもあるような話である。それを払拭するためにいろいろやっておられる。特に動画配信されているとのことなので、一般質問はダイジェスト版にして配信していると言われたのが参考になった。

田畑委員

議会報告会、高校生を対象にした魅力あるまちづくりについて意見交換されているとのこと、非常に活発な活動をされているように思った。コロナ禍で議会報告会ができない状況だし、市民一日議会、地域協議会との意見交換もこれまで何度かやっているが、もう少し若い人の意見を聞く場をつくらねばいけないと感じた。

牛尾委員長

美咲町については皆共通に感銘を受けられたと思う。議会対応はこうあるべきだと改めて思った。そしてやはり大学のあるまちなので、知的集団の知をもっと議会に反映する。例えば包括協定をしてシステムのやるといったことは今までしてなかったが、今からでも決して遅くはない。今年は学部改変があり、学長も変わって大きく新しい踏み出し方をするので、大学ときちんと協定するならどういうことをやるかを、今年のテーマにしたらどうかと感じた。

西田副委員長

一番はパートナーシップの包括協定を結ばれた点である。浜田市もや

足立委員

り方次第でできると思った。市議会と町村議会は全然違うが、人口が少ないところの危機感を、世代を分けて議会としっかり絆をつくっていくという積極的な姿勢が感じられた。特に若い人への議会のつながり方が、我々の年代とは感覚や考え方が違うので、そういった方々との意見交換の場が増えるよう積極的にされているのが一番重要なポイントだと思う。

大学との連携を議会側から積極的に取ろうとする姿が非常に印象深かったので、浜田市議会もここが非常に参考になったのでは。町村議会には政務活動費がないそうだが、それだと今後の町議会議員の担い手は出にくいだろう。小中一貫校という取組も、町自体が危機感を抱いて取り組んでいるのは参考になった。

村武委員

大学と町議会とのパートナーシップ協定は本当に素晴らしい。浜田市議会は今、議会広報広聴委員会と県立大学とが連携して事業を進めているので、そういったところからぜひ包括協定を進めていきたい。

出前議会だが、浜田市議会においても広報広聴がすごく課題となっており、議会広報広聴委員会でも検討を重ねているが、呼ばれた団体に議員が出向くスタイルは面白いと思った。美咲町では広報特別委員会の委員が出向いているとのことだが、浜田市議会は全議員で取り組んでいけるのではと感じたので、議会広報広聴委員会で検討していきたい。

視察が終わった後に議会だよりを何部かいただいた。何度も表彰を受けているとのことと内容も読みやすかったので、議会広報広聴委員会にも提案したい。

小川委員

全体的に事務局職員の人数が少なくて大変だと感じた。議員が自分たちでできることはやっていこうという姿勢が感じられた。

子どもの意見を積極的に聞こうとする姿勢を感じた。研修会をきっかけにして協定締結するところまでよくつないだ。大学の福祉学科との意見交換に始まり、小中学校との意見交換もでき始めている。どんどん発展性があるような印象を受けた。他県からの町内就職もあるという話にもうなずける。

ただ、今はとにかく若い人の意見を聞くことに力を入れ、それをメインに取り組んでいることが強調されていたが、それを通じて具体的な施策につなげることができればもっとよい。時間はかかるかもしれないが、最終的には政策提言や条例制定、ヤングケアラー支援条例などにつながることを期待している。

佐々木委員

歓迎の気持ちが最高に伝わる視察対応だったのが第一印象である。ふだんの運営にも反映されている。また町民に対しても反映されていると思うので、すごく参考になった。

小中大学生との連携について非常に進んでいる。出前講座は浜田でもかなり以前からやろうという話が出かかっていたが、なかなかその要請がなく実施できなかった。内容を考えれば出前講座も実践できるかなと思った。

- 田畑委員 大変親切にさせていただいたと感じる。ここは、誰一人取り残さず伝わる議会、また担い手の育成として子どもたちに議会のことを知ってもらおうとしている。出前議会で地域の方に集まっていただく手法を取られている。我々浜田市議会でもできなくはないと感じたので、参考にするべきではないかと思った。
- パートナーシップ包括協定についても大変参考になった。整理して提言に向けていきたい。
- 牛尾委員長 視察した3か所について、皆から報告を受けた。少し絞り込みながら次の考察につなげていく作業が必要だと思う。今後検討の余地があるといったまとめでもよいのかなど。
- 佐々木委員 まず評価シートをつくるのがなかなか大変である。それぞれ全部項目を分けて検証するわけにもいかない。会派でここはと思うものを出したり、新たに出すのはそれほど違いはないかと思うので、検討する余地があるといった意味合いだと思う。
- 牛尾委員長 評価シートをつくる基準をつくるのが大変なのでは。
- 西田副委員長 今まで浜田市議会の場合は各基本条例を見ながら、検討すべきところだけをピックアップして、それを会派に持ち帰って意見を聞いて、またそれを言う形でやっていたから、定期的にある程度見直しの時期になると基本条例のこれとこれの項目は見直しの時期ではないかと、その部分だけの検証シートを各会派に出してもらおう。シンプルに。
- 下間書記 前回の改選後に議会基本条例をかなり改正した。今までにないくらいの改正だったと思う。会派に持ち帰り、改正が必要だと思われるところはどこかといった聞き方をして、改正していった。議会基本条例第25条の「見直し手続き」では、一般選挙を終えた任期開始後すみやかに、この条例の目的が達成されているかどうかを議会運営委員会において検討するものとする。目的が達成されているか否かを本当は見るほうがよいのかもしれない。そこを見た上で、できてないならできるようにしたり、できてはいるがよりブラッシュアップするようなことのお考えも必要だったのかなと思った。目的が達成されているか否かの検討をしっかりはできてなかったのかもしれない。そこを飛び越えて、よりよい方向への条例改正をしたイメージである。
- 牛尾委員長 実際、書き込んでいるけどできてないこともある。第25条にあるように、本来そういう目的に沿って僕らが議会運営委員会ですというように。それを飛び越えて次の段階をやってしまった。
- 小川委員 当日もそういう議論が少しあった。浜田市議会の場合は検証をしたかどうか。形として残るのはABCと検討項目からはずすというもの。検討しようという部分は具体的に会派でまとめるのか。会派内の議論が見える形にした上で、だからここはこう変えるというように結びつけば、より検証したことが形として残るのではないだろうか。しかし会派でまとめることも難しかったと言われていたので、どのように検証したらわ

牛尾委員長

かりやすいか、もう少し整理すればよい。

議会基本条例第25条に書き込んでいるので、まずこのことについての議論と、達成されていないものもあるのだから、松江の視察を経て考察するとしたらやはり、まず基本条例にのっとして全てやっているのだろうかの検証は必要だろう。

佐々木委員

目的が達成されているかどうかは数字もあるわけではないし、基本条例は理念的なことが多いので、なかなか達成しているかどうかの評価が難しいと思う。浜田でやっているような方式のほうが検証という意味合いでは合っている気がする。

牛尾委員長

例えば議員間討議をきちんとやっているかといえば、やってない。そういうものがあるのだから。理念条例ではあるが、やるべきと書き込んでいるのにやってないものもあるので、そういうもののチェックは最低限必要だろう。確かに見える化のためにはシートをつくるべきなのだろうが、なかなかまとめるのは。基本に戻って、第25条の中でできてないものもあるのだから、できてないものの実現を今後どう考えていくかという方向になるのか。何かご意見があるか。

西田副委員長

今までの浜田市議会のやり方でも何ら問題はないと思う。検証シートなりで部分的にやることはプラスもあるとは思いますが、ただ、そのことで事務局や議会に必要以上の負担がかかるようなマイナス面もたくさん出てくるのではないだろうか。本当は議会が活動しやすい環境をつくるのが最優先で、メリットはあるがデメリットが多い方法というのはどうかと思う。今までどおりでも大きな問題はない。

村武委員

議会事務局の負担が大きくなるのであれば考えないといけませんが、松江市議会の検証シートを見ると、取組状況の欄でどういう取組をしたかも整理されている。それを見て検証するのは非常にわかりやすいように感じる。このたび改正に向けて会派でもいろいろ議論したが、そういうことがこの検証シートによって見えて、だからこうなったという、プロセスとしては非常によいと感じた。

牛尾委員長

検証シートは事務局につくってもらうわけにいかないで、当然議会で作るべきだろう。それと気になったのが、先般の高沖先生の勉強会の際に、議案質疑は重要だと、市長提案の政策についてもっと早い時期に所信表明なりを示してもらえればその提案がどうであるか、そこで議論する必要があると言われたのがすごく頭に残っている。執行部が提案した政策についてどうであるか、対案を示して議論する場が必要なので、そういうことなら政策討論会や議員間討議は必要だと思う。

見える化ということで検証シートを議会がつくるということであれば、それは検討項目として、というまとめに持っていったほうがよいのか。ほかにご意見はあるか。

小川委員

改選後はそういう作業をしたが、どちらかといえば会派に持ち帰ってそこで出された変更箇所を出してもらって、それでよいということがあ

った。先ほどの第25条の目的が達成されるかどうかという視点でそれぞれ出して。松江市議会でも意見がなかなかまとまらないから活用が難しいという結論に終わっていたような印象を受けたが、浜田市議会は結構、合意形成や共通認識づくりとして議員間討議が充実しつつあるように思う。その評価も各議員の意見を聞きながら、皆の総意、合意形成の過程が重要だと思う。シートがあれば見ながら、よりよい検証作業、よりよい議論ができることが重要である。

牛尾委員長

松江方式の検証シートについて一定の研究をすることは必要なのだろう。すぐこれを導入するのではなく。そういうまとめで置いておくという考え方もあると思うが、どうだろうか。

佐々木委員

そういうニュアンスのほうがよい。基本条例に示されていることが本当に今の時代に合っているかも含めて、浜田市議会は見直しをやっているの、それはそれで先進的な取組と思う。難しいものがなぜできないかを検証するというのを突き詰めるだけでは難しい。本当にできないものは見直しの検討も必要である。委員長がまとめられた形でよいと思うが、それ以上に浜田市議会の取組も一緒にやりながらという流れがよい。

牛尾委員長

問題点4点、検討課題3点ということで皆の意見をまとめた。この問題はこの程度で置いてよろしいか。

(「はい」という声あり)

議会報告会は例えば年2回程度という目標があるが、ほかの条例は数値目標があるわけではない。もともと基本条例をつくる際にそこまで考える余地がなかった。

今二つ出ているが、他市の事案を参考に活用の検討が必要と、政務活動費を削減して他事業に流用。これはどちらも今後検討する必要があるだろう。ただ報酬審議会の考えは、議会費はこれ以上天井を触ってほしくない、その中でやってほしいということがあった。

足立委員

松江市議会は先に払って後から精算だった。浜田市議会はこれまでの経緯を含めて最後に全額精算という形に変更になったかと思うが、実際それによって執行率がなかなか向上しないという部分は現実としてある。その辺の改善については、1円まで領収書を出すことを変えるわけではなく、あくまで支給方法の話だと思う。現状に合わせて例えば選択制を導入するとか、そういう検討も含めたことは課題として上げられないかと思うがいかがか。

牛尾委員長

これは歴史を話さないで、なぜそうなったのかということになる。一括前払いで出してしまうと、使い切らねばならないと思う方もいて、政務活動費に該当するか怪しいといった事案が全国にあり、議会改革的には後払いが正しいような風潮がかつてあった。前払いのころは皆だいたい使い切るのに、後払いになったとたんに使えなくなった。それにはいろいろな原因がある。1年間自腹を切らねばならないのは大変なのだといった声は恐らく内在している。そういう議論を積み上げてきて後払い

にしている。ここで議論してそのように決めたが、再度議論がいるだろうか。事務局から補足はあるか。

下間書記

政務活動費については少し前から足立委員からも言われている。使い勝手の問題など言われていた。ここで前払いにするか後払いにするかを決めるというよりも、今の政務活動費の使い勝手や何か要望があれば会派で考えてきてほしいと以前お願いもしている。今後、政務活動費について再度検討するのかどうか、する必要があるなら今後していてもよいし、今の政務活動費について議員側から要望があればぜひ聞きたい。今後検討していくかどうかをひとまずここで決めるのがよいと思う。

足立委員

うちの会派でも話はした。やはり後払いで全て精算となると資金的に厳しい場合もあるので、できれば議員の選択肢がある程度あってもよいと思うのと、結局、執行率が上がらないと政務活動費が今後削減対象になることが明白である。議員はしっかり活動しているのだからそれを数字できっちり出すために、この政務活動費執行率を向上しないと。また、当委員会の中で上げるかどうかも含めて、今後の大きな課題にさせていただきたいがいかがか。

牛尾委員長

政務活動費は使ってもらい、議会活動に生かしてもらわないと困るので、それを使いにくい原因があるとすれば解消していかないといけない。後払いは必ずしも透明で間違いないということにはならない。問題があるなら再度テーマに上げて各会派の意見を聞きつつ、全員が使えるものを目指す必要があるのかなと感じた。ただ、ここに書き込むのはどうか。先進地に伺ってそういうこともわかってきたので三つ目に入っているが。書き込んだほうが次を検討しやすい。

佐々木委員

議員の意識というか、監査をやっているときなども例えば3月ごろに本を一気に買ってそれを賄うようなものは、後払いにすることで避けられるので。松江でも使途項目を七つから三つにしたとか、調査費や研修費など、各議員が問題意識を持って先進地を見てどうするのかというのに使うのは、前払いだろうが後払いだろうが重要だろうと思うので、意識をいろいろな活動の中から持って政務活動費本来の使い方をやっていくことは大事だと思う。意識をしっかり持つのは大事である。

牛尾委員長

そういうご指摘もあったので後払いになったとも記憶している。山水海はそういう考えの方が多いと。この委員会で議論していきたい。これはこの程度でよろしいか。

(「はい」という声あり)

次、政策条例について。政策条例も松江は今の議長がその後はせつかく政策研究会があったのに、そうではなく会派から上げてくれという方向になったと説明があった。それを後退しているとは思わないが、幾ら考えても条例提案というのはいろいろあるので、政策研究会が機能していないのは少し違う気がする。そういうやり方はいかがなものかということくらい浜田市議会としてはコメントしたほうがよいと思うのだが。

政策条例については会派のみならず、委員会や各有志の議員が議員連盟などつくっているのだから、いろいろな提案の仕方があると思う。多様な政策条例提案のやり方を妨げてはいけない。皆はどう思うか。

西田副委員長

政策条例や提案は議会として一番重要なところなので、そこに重きを置くのは非常によいし、それに向けて、松江市は松江市なりのやり方をされた。浜田市は浜田市なりに、また違う課題や地域性があるので、浜田市議会に合った組織づくりというか。先ほど委員長が言われた多様な部分で、出てきた芽をしっかり皆で育む形がよい。

牛尾委員長

やはり合併して市域が広い中で、議員が現場検証しながらつくり上げられたのは評価に値する。それはそれで参考になったと思っている。今四つ上がったが、この四つでまとめてよいか。

小川委員

政策条例研究会を立ち上げたときも当時の議長の思いが強く出ていたし、今の議長は会派でやるべきだという方針が変わったと。議長の考えでころころ変わるのはいかがとも思う。ただ、政策提言などの能力を高めることが目的の中にあつたもので、それをやるために何か欠けたところがあつたような気がする。会派からつくるにしても政策提言や条例案を出すにしても、アドバイスなどを受けられる環境がないと。議会事務局に専門的知識を持った方がおられるとか、そういう違いがあつて年間に何本も条例制定をすることにつながっている。そういう不十分さを置いておいて議連や委員会や会派でというのはあるが、これがあれば活発に政策討論できるといった工夫は必要だと思う。そのあたりはもう少し考えてほしい。

牛尾委員長

議員提案条例も法制の担当に来てもらわないと、なかなか条例が上げられない現状である。かつて条例を2本つくった際に、「今後は一議会に一本くらい上げられたら理想だ」と冗談で言ったら事務局から否定された。振り返ってみれば当時は事務局や法政の世話になることが多かったのだから、議員提案条例をつくっても威張って言えなかった。法政担当職員が議会事務局にいればもっと違うのだろうが、現状の定員適正化計画の中でそこまで議会に職員を配置してもらうのはどうかとも思うが、議会全体の問題なので。書記の見解はどうか。

下間書記

事務局の法政能力が足りてないのは申しわけないが、条例策定の際には市の法政担当者に大変協力してもらっている。

牛尾委員長

通年会期のときも、こちらの考えを早目に伝えて執行部に入ってもらい、問題が見つかる都度に指摘してもらって仕上げた記憶がある。

小川委員

松江の事務局長も、そういう格好で1名増員してもらったと言われていた。そういうところが少し対応できるようになるのではと。今までの議論の中でも、議会事務局ではなく議会局として政策を一緒につくるような目標を持って、もう少し議会と事務局との連携体制を。また大学との包括協定ということで、大学ができたときに条例を2本つくったように、例えば会派内で条例案をまとめて、大学にも打診してアドバイスを

田畑委員

いただけるような環境が日常的にあれば、もっと活性化できるのではないかと思います。そこが大学の知見を生かしてということかと思う。

考え方はいろいろあるが政策条例なので。会派が一つの政策集団であり、その政策集団が地域を見ながらいろいろな考え方でまとまって一つの条例をつくり上げようということにならないと。委員会や議員連盟でやることももちろん大切だろうが、委員会であれば理念条例になってくる確率が非常に高い。私は会派でやっていくのが本来の姿ではないかと思う。

牛尾委員長

松江の議長と同じお考えということで。そのとおりだが、かつて福祉環境委員会で条例提案を1本上げられている。6番目にもあるように、これでまとめたいがよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

ではこれで松江は終わりにする。暫時休憩する。

[11時12分 休憩]

[11時25分 再開]

牛尾委員長

委員会を再開する。続いて津山市。

皆の共通課題だったLINE WORKS。セルラー方式にするとWi-Fiは要らないということか。

足立委員

浜田市議会は今Wi-Fi方式だが、セルラー方式の法人契約があるかと思う。そのあたりは事務局に調べてもらうことになる。津山市の話でも、5ギガ使うことはまずないと言われていた。それを考えると動画などを見なければ3ギガでも十分いけるかと思う。そうであれば基本料金も安くなる。具体的数字は事務局に調べてもらい、セルラー方式に切りかえることを当委員会でも検討してみてもどうか。

牛尾委員長

今使っているものは来年度に新しくなるのか。

下間書記

入札したので令和4年3月までの納品を待っている状況である。

牛尾委員長

ではセルラー方式に変えるのはもう無理か。

下間書記

はい。検討するなら令和5年度に検討し、令和6年度以降にということになる。

牛尾委員長

もう決まっているなら仕方ない。

西田副委員長

LINE WORKSは令和5年度からも可能になるのでは。

下間書記

LINE WORKSは無料があるので、アプリを入れればよいだけである。ただ、セルラー方式ではないのでWi-Fiのあるところでないと、よりよい活用はしにくいかもしれない。

牛尾委員長

津山市では声の広報と何人かがおっしゃっていた。重要だと思う。特に障がいのある方には。

下間書記

声の広報は既にやっている。浜田市の広報や議会だよりを読み上げてもらい、視覚が不自由な方に送付してもらっている。しかし津山市がや

牛尾委員長

っているような方法ではない。

皆ご存じだったか。議会広報広聴委員会の方がご存じないようだが。津山市も1期目の議員が頑張っているらしい。今、画面に出ている件で何か意見はあるか。出前議会をやっている委員会はあるか。産業建設委員会は農業者や漁業者とやっている。出前議会は浜田市議会でいえば、重要案件の意見交換会。それはできるようになっている。出かけるか来ていただくかの違いであって。

村武委員

美咲町の出前議会は、例えば自治会などから要望があれば行く。そういうのは浜田市議会では今のところない。

牛尾委員長

町議会のほうがフットワークがよい。町議会は毎年議会だよりコンテストがあるので、それに向かっている。だから進んでいる。議会として出前議会を検討するのがよいのか、議会広報広聴委員会で検討してもらうよう投げかけるのがよいのかは議論が分かれるところだろう。

佐々木委員

ここで決めるのは違うと思う。10年くらい前に出前議会が全国的にはやっていたこともあり、やった経緯があったと思うが、なかなか町内などからの要請がなかった。相手にどう伝えて、どう興味を持ってもらって仕掛けていくかが大事だと思う。美咲町からはそこまでの説明がなかったのだからわからないが、町議会なので町民と議会が近いというものもあるのかもしれない。何かしら仕組みづくりの検討は必要かもしれない。

牛尾委員長

美咲町は若い人と意見交換をやっていた。浜田市議会は広い意味では、中学生も出てくるからそういうことをやっているとも言える。町議会はもっとフットワーク軽くやっているのだろう。

以前、北海道芽室町の高校生の話を出したら、政務活動費がないから行けないと言われた。

参考になった案件は下記のとおりと書き込んであるがどうか。出前議会も、議会としてやる必要があるという考えは必要だと思う。ただ、どこでも出ているかはわからないが。議会の話が聞きたいという要望があれば、そういうスタンスを持つことも必要だと思う。するしないは別として検討は必要ではないだろうか。

西田副委員長

検討は必要だと思う。出前議会は市民側に立ってみたら、いろいろな地域単位で議員に聞いてみたいことがあるから、そういうことをやりたいと思われるところもあると思うが、そういうときに何か書類を出したり手続きが必要だったりなど、ハードルが出てくるのでは。柔軟に、市民から簡単に要望が出せる環境を。言われたらすぐ行くくらい、もっと身近に感じられるような議会側からの広報などが必要ではないか。

牛尾委員長

貴重な意見である。例えば議会図書室を使って議員なんでも相談室なども一つの手法だろうと言ったことがある。そういうことをやっているところがあるのなら、副委員長が言われるように。市議会だからと構える必要はないので、市民の要望があればそういうスタンスを持つこと、姿勢を見てもらうことは必要だと思う。ほかの議員の意見も聞かなけれ

笹田議長

ばいけないが、そういう時期なのではと感じる。

出前議会というよりも出前報告会のような感じで、議会だよりを通じて議会の説明をして、その後意見交換会をするということで。ふだん浜田市議会がやっている意見交換会よりも報告会に近い形でされている。その後いろいろな意見を聞く形で。

議会だよりの参考になるため議会広報広聴委員会に情報提供と書いてあるが、こういった形で報告会をされているという情報提供も、ここで議論してもらいたいのもありかと思う。出前議会という言葉だけだと何をするのかわかりづらかったのだが、あそこでされていたのは報告会に近い形で、呼ばれて報告して意見交換する形だったので、それでもよいかと思う。別の委員会でまた違う意見になってもいけないので、この委員会からの思いをどのように提供するかも含めて、議論したほうがよいのでは。

牛尾委員長

議会広報広聴委員会に情報提供させてもらう。その先は議会広報広聴委員会の中で一定の方向を出してもらえば。情報提供ということで終わる。

田畑委員

個人の意見ではまずいかと思ったが、タブレットを見ると議会だよりをベースにされているので、言葉の置き違いだけなのかなと思う。出前議会と議会報告会と内容はほぼ同じものだろうと思う。

牛尾委員長

大分煮詰まってきた。つい先日も、益田の議場で小学生と意見交換をやっていた。益田は小学生議会・中学生議会が多い。浜田は一日議会をやっているが、今後はやがて大学と包括協定ということになれば、やがて大学生と政策討論という場面も出てくることになると思うので、今後の参考として小中高校についてどのようにやっていくかは検討課題だろう。今議会広報広聴委員会でやっている主権者教育は、あくまでも高校だろう。中学はやっているか。

村武委員

主権者教育に関しては大学と連携している。本当はその研究課題の中で高校生や中学生にも向けてやっていきかけたかったが、今回は難しかった。

今、議会広報広聴委員会で考えているのが高校生を対象とした井戸端会議であり、検討している段階である。

牛尾委員長

浜田高校も水産高校も社会人との意見交換会をやっている。そういう時期だと思う。それは議会広報広聴委員会が窓口になっているので、しっかりやっていただいて。また議会全体で何かやることになれば振っていただければ。参考になった案件はこれくらいでよいか。

下間書記

4番と5番の議会広報広聴委員会へ情報提供という流れになったが、情報提供の方法は、ここにおられる委員が委員会のときにしてくれるということなのか。

牛尾委員長

正副委員長で議会広報広聴委員会の正副委員長へ文書で渡すとか。口頭でもよいが。議会広報広聴委員会の副委員長も行かれているわけだから。

村武委員 大変難しいが。どうだろうか。

牛尾委員長 僕らが視察へ行ってこのような結論に至ったので、議会広報広聴委員会のほうで少し考えてみていただけないかという程度の情報提供なので。

村武委員 それはよいとは思いますが。

牛尾委員長 小川委員はどう思うか。

小川委員 広報に関係あるのは 4 番 5 番だけでなく全体的なことで、視察に行った先の情報を伝えるのは全然問題ない。文書にされたほうがよい気がする。

村武委員 議会広報広聴委員会に文書で伝えるのはよいと思う。明日、議会広報広聴委員会があるが今ちょうど議会だよりについて検討しているので。これは視察項目にも入ってなかったのだが、私から提案をしようと思っている。文書が出る前に私から言うかもしれない。

牛尾委員長 今日の話のまとめをプリントアウトして情報提供してもらおう。やがて正式に正副委員長から文書があることを前提に情報提供してもらっても別におかしくないのでは。

佐々木委員 議会だよりが参考になるというのはどういう内容なのか。

村武委員 視察内容にはなかったもので、これは消してもらってよい。

佐々木委員 基本的に町の議会だよりはすごく進んでいて、大きな市ほどつまらない。我々は十数年前に邑南町に行った。邑南町は島根県一のものをつくっていた。町の議会だよりはどこも競争されていてすばらしい。美咲町もかなりよかったのだろう。何がよかったのか知りたい。

牛尾委員長 これはここに書き込まなくても、美咲町の議会だよりを持ち帰ったので、よかったので参考にしてほしいと報告したらよいのではないかと思う。ここの特別委員会がというよりも。

佐々木委員 これがよいと認識できればそれでよい。

村武委員 なのでそこはなくてよい。

牛尾委員長 全部で 6 項目あるが、広報広聴についてはこういうまとめでよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

了解をいただいた。続いて大学との連携について。大学があるおかげでいろいろな業界が助かっている。市も大学を核としたまちづくりというテーマを下ろしたわけではないので。ただ、最近は市民と大学との距離が以前ほど近くないのも現実である。

先般議長から、県立大学と包括協定をやりたいということで、副委員長と局長・次長には文案が来た。それを当委員会で検討していく必要があると思っている。新年度に 4 人目の学長が来て、大学の組織が変わってくる。ぜひこういうことをやっていく必要があると思う。それもあって美咲町に行かせてもらったというのもある。ここのまとめはこれでよいか。包括協定に何を入れるかは当委員会で検討する必要があるし議長の思いもあるだろう。なるべく早目に、スピード感をもって新学長でス

タートする前後くらいで申入れする必要があると思っている。これでよろしいか。

「危機感を持ちながら対応」というのはどういう件だったか。

市民一日議会でも学生からいろいろな提言があるので、やがて包括協定をすれば学友会や議会との意見交換もやっていく必要があるし、そこからいろいろなものが出てくるだろう。

小川委員

去年の年末にギカイと語ろうというのがあるって、初めて大学生と生の意見交換ができた。すごく有意義だった。その中の1人にお礼のメールを送ったら、1か月くらいして返事が返ってきた。県立大学には政経塾というのがあるらしく、その資料なども全部送ってもらった。参考にもなり、今後またそういった意見交換があれば参加したいとのことだった。

日常的な意見交換、例えばアルバイトをして益田から浜田へ最終列車で帰るとバスが終わっていて歩いて大学まで帰らないといけないと聞いた。そこがここに書いてある条例制定とか具体的な施策につなげるためにもう少し深い議論ができるような機会が日常的にあればよりよいと感じた。そういったことを包括協定の中に入れて、日常的な意見交換の場ということができれば、ギカイと語ろうに参加させてもらって感想も含め非常に有意義であると思った。

牛尾委員長

昔に比べて最近は学生との距離が少し離れている。コロナで居酒屋などのバイトが全滅だった。大学とつながることで個人の議員がもっと大学生と知り合って、いろいろな人生のお手伝いができるのではと思った。僕は今、北東アジア研究センターという市民研究員代表をやっているが、3月末でそれが解散する。今まで何をやってきたかという、大学院生と担当教官と市民とで論文をまとめ上げる手伝いをしていた。院生はテーマのハードルが高くて大変だったので。今の学長が就任された際に、これを衣替えしたい、今後は学部生と担当教官と市民とで、地域貢献するようなことをテーマとして勉強を始めたいのだと。それが4月からスタートする。そういう、時期でいえばちょうどよい。非常に面白いことになるのではと思っている。

一応まとめが終わった。最終的にブラッシュアップが必要なら次回が必要だろう。これでよいなら次に行政視察レポートをつくらないといけない。それは次回にしようと思う。今日はこのくらいでよいか。はい。

議題2 その他

牛尾委員長

下間書記

次回をどこかで決めておかなければならない。

行政視察レポートを全員協議会で発表することになると思うが、一番近い全員協議会が2月7日。次が2月24日の3月定例会議初日、最終日の3月17日。2月7日は厳しいと思う。初日の24日に行政視察レポートをするならそれまでに委員会を開催する必要がある。

《 以下日程調整 》

牛尾委員長

では2月16日の10時からということで。ほかにないか。
(「なし」という声あり)
では以上で終了する。

(閉議 12時5分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により委員会記録を作成する。

議会改革推進特別委員会 委員長 牛尾 昭 ⑩